

【実施日】 令和5（2023）年8月22日（火） 13：30～15：35
下野市庁舎 304会議室

【参加者】 22名
自立支援協議会就労部会、市内施設連絡会、相談支援事業者連絡会、
栃木県農政課、市町農政課、県インターン生、事業所実習生、等

◆質疑応答

Q1（事務局）賃金はどのように設定しているか。

（農業者）

- ・とちぎセルフセンターを介して決めている
- ・A型事業所の場合は最低賃金が基本になる。B型事業所は、障がいの状態（障がいの種類）を伺い、作業能力により出来高払いが多い。

Q2（相談支援事業所）マッチングする上での事業所の選定方法は。

（農業者）

- ・作業ができるかできないか（請け負える内容の作業か）
- ・工賃について両者が納得できるか

Q3（相談支援事業所）デイケアでは自然と触れ合うと息抜きになり利用者の表情も変わるが、農業者が感じたことはあるか。

（農業者）

- ・はじめは表情が暗い印象の子が、いつも決まったメンバーで作業していることで利用者同士仲良くなり、片付けや収穫も競争しながら行っていた。一般就労するころには表情も明るくなっていた。

Q4（相談支援事業所）農福連携の現状はいかがか。

（県農政課）

- ・農福のマッチングは20～40件。
- ・支援員不足のためか、福祉施設の手があがりにくい現状がある。県としてどのようにサポートしていくか検討中である。

Q5（相談支援事業所）農家仲間で農福の話題はあがるか。

（農業者）

- ・若い生産者間では人手不足が課題となっており、自分の周りではすでに農福連携を行っている。
- ・健常者でも慣れるまで一か月程度かかる。
- ・施設側の手があがりにくい。

(福祉事業所)

・施設作業の空いた時間に作業時間が合うか。また物理的に近い場所でないと農福連携を進めることができない。(移動に時間がかかると作業時間が減る)

Q 6 (事務局) 支援員として工夫している点は。

(福祉事業所)

・支援員が作業内容を理解・習得していないとできないため、作業支援に行くであろう職員のみで、何度か収穫の練習を行わせていただいた。

Q 7 (就労部会) 今後の展望を伺いたい。

(福祉事業所) 収入アップできるように、今後ご指導お願いしたい。

(農業者) いい出会いがあった。袋詰め作業をすべて委託できるようになるとよい。

Q 8 (相談支援事業所) 仕事の幅が増えていくが仕事への姿勢や利用者の変化は。

(福祉事業所)

- ・作業がマンネリ化しないようにしている。新しいことを行い成功体験に繋げたい。
- ・個別支援計画を立てる上でも「ピーマンの袋詰めができる」など目標設定ができた。

Q 9 (相談支援事業所) 飛び込みで営業に来たときにどう思ったか。

(農業者)

・はくつる会の飛び込み営業自体には特にためらいはなかったが、すでに数施設の利用があったので迷った。でも、場所が近いのでいい関係を築きたいと思った。

Q 10 (相談支援事業所) 一緒に作業する従業員さんの反応はいかがか。

(農業者)

- ・初めはためらいも多かったが、人手不足が大きかった。
- ・きゅうりのめかきなど、利用者さんが大人数で行った方が早い作業もある。
- ・従業員もありがたいと感じ、丁寧に教えてくれるようになった。
- ・温かく見守っており、利用者がいることでピリピリしないという効果もあった。

Q 11 (相談支援事業所) ここがやりにくいというような農業者の意見、農家として工夫したところはあるか。

(農業者)

- ・利用者さんに教えるときに、規格・基準をどうするか、きちんとならないと教えられないため、基準の統一を図ることができた。
- ・従業員みんなの考え方が経営者側になる、いい意味で作業のやり方を考えながら取り組んでいる。

Q 1 2 (就労部会) 今後、どのような施設を求めるか。

(農業者)

- ・施設ができる作業内容で、作業を拡大する方法をとる。

Q 1 3 (就労部会) 精神障がいの方は気温天候に左右されやすい、モチベーション管理はどのようにしているか。

(福祉事業所)

- ・以前はエアコンのない部屋で作業していたが、現在は涼しい環境を整えている。
- ・スイカ割りなど、栽培収穫したものをみんなで食べるイベントを行っている。

Q 1 4 (就労部会) 障がい者を受け入れることに抵抗はあったか。

(農業者)

- ・自身は、障がい者が周りにいたので抵抗はなかったが、従業員は初め戸惑いがあったと思う。

Q 1 5 (事務局) 信頼関係を築くポイントは。

(福祉事業所)

- ・毎月納品しているため、お話をさせていただく機会が多い。
- ・ミスしてしまった場合は、誠意を持って対応している。

(農業者)

- ・農業に飛び込む若者が少ないなか、永井さんは教えがいがある。年齢の近いビジネスパートナーであり弟子のような存在。